

7. 4つのコースのご案内（第1日午後、第2日）

こんな困りが

- ・教員間で子どもの情報を共有している実感がない
- ・子どもの実態把握をどうしたらいいか
- ・実態把握はできるが、授業につながらない
- ・自分の指導に自信がない

「教室でいきる自立活動」

～支える4つのコース～

こんな気づきに

指導のサイクルって
こういうことか！

専門家との連携の
土台作りには！

明日から子どもに
こう関わってみよう！
やってみたい！

情報の共有ってこれ
でいいんだ！

I コース

テーマ：「個別の指導計画」に基づく
授業づくりのあり方

“個別の指導計画”と“毎日の学校生活・毎日の授業”
どんなふうにつながっていますか？書類として眠ら
せていませんか？

「こんなふうに育ってほしい！」という大切な思い
を、周りの先生方と共有していますか？

本コースでは、自立活動と各教科等の授業を有機的
に関連させ、より効果的な指導を行うための核である
個別の指導計画について、「システム」「共有」「具体
化」「サイクルをまわす」をキーワードに、その考え
方や具体的な方法を、演習を通して体験的に学んでい
たいただきます。

一人一人の子どもをどのようにとらえればよいの
だろう、と悩んでいる先生方

個別の指導計画をどのように活用・運用していけば
よいのだろう、とお考えの先生方

通常校の外部支援において、必要な手だてや配慮を
どのように導き出し、どのように先方と共有・実践し
ていくかを検討している先生方、ぜひご参加下さい。

II コース

テーマ：障害の重い子どもの
学級づくりを支える静的弛緩誘導法

人間は一人では生きられません。社会の中
で生きられるのが人間です。その力を育てる
のが学校教育であり、そのための重要な場が
学級です。それならば、社会の中で生きてい
く力が育ちにくい障害の重い子どもたちにこ
そ、学級づくりが大切なのではないでしょ
うか。

そのとき、“人間が育つ” いちばん初めを支
えていく、具体的な方法である「静的弛緩誘
導法」が、学級づくりに欠かせないと私たち
は考えるようになりました。

このように考えるようになった理由を、講
義、実技体験、公開授業を通して説明し、障
害の重い子どもたちの学級づくりの意義を共
に考えてまいりたいと思います。

III コース

テーマ：動作法を活用した
自立活動の授業づくり

自立活動の授業で、「何を指導したらよいの
か？」「何のために指導しているのか？」
「指導していることが何につながっているの
か？」など、疑問をお持ちではないですか。
本コースでは、動作法の考え方を使って、以
下のことをわかりやすくお伝えします。

- 日常生活場面での子どもの見方やとらえ方
- 自立活動の指導計画を作成するときの実態把握や目標設定、評価の仕方
- 参考にさせていただけるような指導事例の紹介や授業公開
- 指導されているお子さんにも「こう関わってみたい」と思えるような実技体験
- 参加者のニーズに応じたテーマによる、テーマ別の研修の時間

経験の浅い先生方にも、指導の見通しを持つ
手がかりを見つけていただけると幸いです。

IV コース

テーマ：子どもが喜ぶ
“知覚 - 運動学習” その理論と実際

知覚 - 運動という視点から、子どもの実態を捉
えたことがありますか？ 肢体不自由児には知
覚 - 運動の能力に課題がある場合が多く見ら
れます。その実態把握や指導方法、教具・教材のアイ
デアについて提供するのが本コースです。

本コースでは、知覚 - 運動学習理論に基づく
子どもの見方や指導の考え方を講義し、当校知
覚 - 運動学習研究グループで開発・作成した感
覚運動教材（あそび）や認知学習教材、授業で
の活用・展開について具体的に紹介します。
また、比較的経験の浅い方でもお子さんとのふ
れあいやかかわりの糸口としても活用してい
ただける感覚運動教材や教科学習場面に役立つ認
知学習教材について実技実習して頂き、実践例
についても提示してまいります。